



医療機器に使用する発電機の補助について
て当市の考えは？

容 具体的に検討していきたい

である。

議員

現在、医学の進歩を背景として、新生児集中治療室などに長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃瘻などを使用し、たんの吸引や経管栄養など医療的ケアが日常的に必要な医療的ケア児の数は、平成28年時点で1万8000人を超えている。医療的ケア児への支援は、医療、福祉、子育て支援、保険、教育等の多岐にわたる分野の連携が不可欠になっている。これらは同時に、保護者や家族にとっても重要な問題である。当市の医療的ケア児数とその内訳を示していただきたい。

保健福祉部長

平成30年4月1日時点で8名となっている。内訳とし、複数ケアを受けている方もいるが、人工呼吸器を使用している医療的ケア児は3名、気管内挿管、気管切開は2名、酸素療法は3名、経管栄養が4名、導尿が2名、その他たんの吸引等が5名

大澤 清 議員

議員

いつ起こるか分からない災害などで停電になることは、人工呼吸器やたんの吸引機などを使用する医療的ケア児にとって命取りになりかねない。これは高齢者を含め、これらを使用するすべての人々に言えることだ。在宅や避難所で機器の充電が切れた場合には、最悪な状況になり得るため、医療機器に使用する発電機の補助について当市の考えを問う。

保健福祉部長

そのようなリスクを軽減する上でも、質問を参考に、今後具体的に検討してまいりたい。

議員

ぜひ医療的ケア児のみならず、災害時に備え、すべての要支援者に対しても、生命を守る意味でも早急な助成支援を講じるよう強くお願いしたい。

問 質 質 問 JOSOSHIGIKAI DAYORI JOSOSHIGIKAI DAYORI JOSOSHIGIKAI DAYORI JOSOSHIGIKAI DAYORI 問 質 質 問



水海道にも多目的施設を

容 専門家に調査を委託し、各施設の有効活用の方角性を示したい

議員

今回で取り上げるのは7回目で、多くの市民が、署名活動をされており、大変心強く思っているところだが、市民の広場とカスミ跡地の計画・水海道公民館の移設について問う。

教育委員会教育部長

水海道公民館は昭和48年建築で、既に45年以上が経過し、武道館についても昭和7年の建築で老朽化が激しい。特に武道館は、国の登録文化財として、また旧水海道小学校の遺構としても貴重な建物で、利用者も多いことから、活用しながら保存していきたい。

議員

プロジェクトチームでは何回くらい話し合いをしてきたか。指定文化財である武道館の利活用についての解決策はあるのか。

生涯学習課長

29年度に4回、30年度に3回開いた。株式会社カスミとも直接話し合いをする機会を持った。

中村 安雄 議員

議員

武道館の移設は法的にも技術的にも可能と考える。補正予算で調査費を計上しこの問題をクリアしたい。また、登録文化財そのものについては解体・移転の費用に補助金は見込めない。

議員

水海道地区については、集会所がない。石下地区には地域交流センターがあり、中央公民館もある。カスミの建物そのものは、面積も広く会議の場所として改修し、利用できる可能性はないのか。何とか早急に市民の願いをかなえることはできないか。今回の署名が数万人という数であったとすれば、これほど力強い支援体制はない。

市長

まず一步は、300万の補正予算の調査費である。生まれ変わった水海道と石下の中心市街地を作っていくきたい。

議員

たくさんの署名が集まっている。最善を尽くして市民の願いをかなえる体制を作ってほしい。